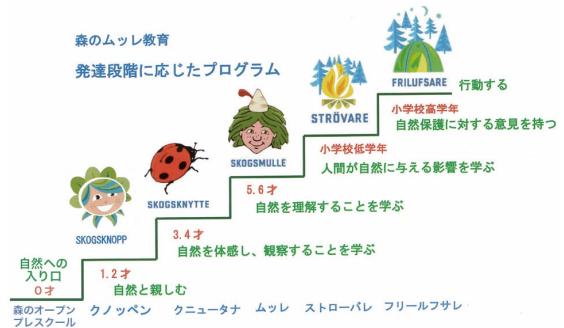


今回の ESD のひろばは「森のムッレ教育と ESD」をテーマにお話ししたいと思います。

森のムッレと言えば、はいチーズの写真で見たり、子ども達が葉っぱや小枝、木の実を持って帰っているのでご存じだとと思います。

そもそもムッレってなに？

森のムッレ教育とは、子どもの成長過程にあった段階的な学びを通じて「自分も自然の循環（エコロジー）の中のひとり」なんだという自然感覚を学び、持続可能な社会づくりの課題に対応できる資質・能力を育む環境教育のプログラムです。0歳児のプログラムを「森のプレオープンスクール」（保育園では森のひろば）1.2歳児頃を「クノッペン」といいます。



遊んでるだけで環境教育なの？

そうですね！ムッレ教育は段階的なプログラムといいましたが第一段階は「自然の多様性の発見」、第二段階は「調べる段階」第三段階は「考える段階」です。森のひろばは「多様性の発見」の入り口で自然にふれるのは日常的な当たり前のことだという感覚を培う段階です。左は子ども達が自然の中で動物を探して、発見することを楽しんでいる写真です。クノッペンはそこから少しうまく自然と親しみながら、少しづつ先生と一緒に「これってなに？」を調べる段階になっていきます。子うさぎの森保育園ではクノッペンまでですが、福間津屋崎こども劇場では「森のクニータナ」「森のムッレ教室」などなどいろいろな体験することができますよ。



それが ESD とつながるの？

皆さんはご自分が人や物、事柄などたいせつにしていることがありますよね。一番たいせつなのは家族でしょうか？子ども達が好奇心で自然を観察し、かわいい、自分と地球の生き物は友達と思うとき、子ども達は地球や生き物を守っていこうとするでしょう。いくら自然や野生の生物を守ろうと呼びかけても、感情がなければ行動につながらなし、続かないと思いませんか？そして自然を体験すると、「どうして？」「なぜ？」という質問がよく出でます。この経験がエコロジーの知識となるのです。